

# 問題訂正

教科： 国語 ( 文・教・経 学部)

問題冊子に、次のとおり訂正があります。

## 問題訂正

- ・科目名：国語
- ・問題冊子 12 ページ
- ・問題番号：問題 三
- ・問題文の はじめ から 7 行目（下から4文字目）

(誤)

当ニ  
シレ  
飽ク

(正)

当ニ  
シトレ  
飽ク

※「当」字の左下送り仮名「シ」の下に「ト」を加える。

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

(八木雄二『1人称単数の哲学』による)

【注】 ○感覚刺激——感覚受容器によって受け入れられ、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚などの各種感覚を起こさせる刺激。

問一 傍線部 a、j のカタカナは漢字に、漢字は読みをカタカナに、それぞれ改めよ。

問二 傍線部①における「孤独」とはどのようなことを指すのか、本文に即して五〇字以内で説明せよ(句読点・かつこ類も字数に含める)。

問三 傍線部②「人は知的であるほど、じつは騙されやすい」とはどういうことか、本文に即して一〇〇字以内で説明せよ(句読点・かつこ類も字数に含める)。

問四 傍線部③において、「きわめて健全なのである」と筆者が言うのはなぜか、その理由を本文に即して一三〇字以内でまとめよ(句読点・かつこ類も字数に含める)。

問五 傍線部④「ことは抜きに、臭いや絵や音楽だけで、人を騙すことはむずかしい」とあるが、その理由を本文に即して一〇〇字以内でまとめよ(句読点・かつこ類も字数に含める)。

問六 次のア～オの記述のうち、本文の内容と合致しているものを二つ選び、記号で答えよ。

ア 人間の通常の性として、「他者のことば」に自分の心をゆだねることはしない。

イ 自分の理性が受け取った「ことば」こそが真実であり、わたしたちはいつもその「ことば」通りに行動する。

ウ 人類は、集団で同じ「ことば」をもち、協力し合うことによって、大自然の中で生き残ってきた。

エ 信頼できる他者の発した正しい「ことば」だけが人間の思考と行動を決定する。

オ 名を知らない植物や鳥を見ただけでは、心にしっかりと印象付けられることはない。

二

次の文章は、江戸時代中期の文学者、荒木田麗女による怪異物語集『怪世談』あやしのよがたりの「飛頭蛮」の一節である。陸奥の守は、最近、屋敷に仕え始めた、美しい奉公人の女のもとに忍んで行こうとしている。これを読んで、後の間に答えよ。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

【注】

- 飛頭蛮——首が抜けて宙を飛び回る怪異。 ○守——陸奥の守のこと。 ○ろなう——「論無く」の転訛。  
○つだみ——乳児が乳を吐くこと。 ○御達——貴族の家に仕える、身分の高い女房。  
○打ちまき——魔除けのためにまく米。 ○どうもなく——動ずることなく。  
○籬が島——陸奥の塩竈の近くにある小島で歌枕。

○真木の柱は——『源氏物語』真木柱の巻で、邸を立ち去ろうとする姫君が「今はとて宿離<sup>か</sup>れぬとも馴<sup>な</sup>れきつる真木の柱はわれを忘るな」という歌を残した話を踏まえる。

問一 波線部ア～ウについて、品詞分解して文法的に説明せよ。

問二 傍線部①～③について、なぜそのようにするのか、心情を説明せよ。

問三 破線部Ⅰ～Ⅲについて、適宜言葉を補いつつ、現代語訳せよ。

問四 二重傍線部A～Bについて、なぜそのように感じたのか、直前の和歌の内容を踏まえて、理由を説明せよ。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。但し設問の関係で送り仮名を省いた部分がある。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

(沈括「夢溪筆談」による)

【注】 ○王文正——王旦。字は子明、文正は諡。北宋真宗初期の宰相。太尉とあるのは死後に贈られた称号。

○局量——度量。 ○埃墨——スス。 ○庖肉——台所にある肉。 ○饗人——料理人。

○一斤——約六四〇グラム。 ○主者——責任者。ここでは、門の修理をする大工の棟梁を指す。

○廊廡——邸宅の東西にある細長い屋根付きの建物。 ○扱鞍——馬の鞍によりかかる。 ○俯伏——ひれ伏す。

○控馬卒——馬の口取り。馬の口につけた縄を取ってひく人。

○歳満——年季が明ける。奉公の年限が満了すること。

問一 波線部 a「幾何」b「暫」c「復」の読みを、それぞれひらがなで記せ。

問二 傍線部 1「家人欲試其量」について、「其」が何を指し示すかを明示した上で現代語訳し、具体的に何をしたのか説明せよ。

問三 傍線部 2「庖肉為饗人所私」を書き下して、現代語訳せよ。

問四 傍線部3「不<sub>レ</sub>發<sub>二</sub>人過<sub>一</sub>」を現代語訳せよ。

問五 傍線部4「乃是逐<sub>レ</sub>日控<sub>レ</sub>馬、但見<sub>レ</sub>背、未<sub>三</sub>嘗視<sub>二</sub>其面<sub>一</sub>。因<sub>レ</sub>去見<sub>二</sub>其背<sub>一</sub>、方省也」を「其」が何を指し示すかを明示した上で現代語訳せよ。

問六 王文正は、どのような人物であるのか。本文に即した具体的な事例を交えながら、一五〇字以内で述べよ(句読点も字数に含める)。